

# 平成30年度保々中学校 学校アンケート結果と考察

内容	設問 ※設問に対する回答は、4（そう思う）、3（だいたいそう思う）、2（あまりそう思わない）、1（そう思わない）の4段階で評価	平均評価	4（そう思う）と3（だいたいそう思う）の評価の割合				考 察
			1年生	2年生	3年生	全体	
確かな学力	生徒 学校の授業はわかりやすい。	3.1	92.6	94.7	82.2	89.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業で学習したことは、将来の役に立つ」では昨年度の評価割合が91.9%から94.5%と2.6%増加している。1年生の96.1%が一番高いが、2年生、3年生も昨年度のそれぞれの学年と比べると、ともに3%ほど高くなっており、授業への意識・関心・取り組みが高くなっていると言える。その一方で、「学校の授業はわかりやすい。」では昨年度に比べて平均評価で、-0.1、評価割合で2%ほど減少した。近年、高い割合で推移しているものの、1割強の生徒が「わかりにくい」と回答しており、今後も教員の授業改善に努めていく必要がある。</li> <li>保護者の平均評価は昨年度の2.9と同様で、「1（そう思わない）」と「2（あまりそう思わない）」を合わせると昨年度同様、20%を超える。今後も授業改善を進めるとともに、これまで以上に学習の意義や必要性等を、全教育活動を通して生徒たちに考える機会をつくっていく必要がある。</li> </ul>
	生徒 授業で学習したことは、将来の役に立つと思う。	3.4	96.1	94.7	93.2	94.5	
	保護者 お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な学力を身につけてきていると思う。	2.9				76.2	
	教師 学校は、生徒の学力の向上を目指して適切な指導を行い、成果をあげている。	3.1				90.0	
学習評価	生徒 先生の評価によって、勉強についての自分の長所や課題がわかったり、やる気が出たりする。	3.1	86.3	84.2	75.3	81.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の三機能は「生徒の自己学習力の向上」「外部への説明責任」「教師による指導と評価の一体化」である。このうち、「自己学習力の向上」にあたる生徒の平均評価は昨年度の3.2から3.1へ、「説明責任」にあたる保護者の平均評価は昨年度と同様で3.2、「指導と評価の一体化」に当たる教員の平均評価は3.4から3.2と2つの項目で昨年度を下回る結果となった。学習評価については、保護者からは一定の評価が得られているが、生徒と教員の評価割合に10%以上の差があるため、なお一層の授業研究の上になち、生徒の力となる評価と指導の一体化を進めていく必要がある。特に3年生の約25%の生徒が「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答しており、日々の授業や進路相談等も活用し、個に応じた丁寧な指導をしていく必要がある。</li> </ul>
	保護者 学校（先生）は、お子さんの学力や学習状況、努力の様子等について保護者に適切な説明を行っていると思う。	3.2				93.0	
	教師 学校は、評価結果をもとに、指導をやり直したり、教材を工夫したりするなど、指導と評価の一体化に取り組み、成果をあげている。	3.2				95.0	
キャリア教育	生徒 自分にはよいところがあると思う。	3.0	72.5	77.6	79.7	77.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の評価割合は、ほとんどが昨年度を下回る結果となった。</li> <li>「自分にはよいところがあると思う」では昨年度79.7%に対し、今年度77.1%で2.6%減。</li> <li>「自分は、（まわりの人たちから）自分の存在や思いが大切にされていると思う。」では昨年度79.4%に対し、今年度78.8%で0.6%減。</li> <li>「自分は、将来の夢や目標をもっている。」では昨年度71.4%に対し、今年度64.7%で6.7%減。</li> <li>「自分は、自分からあいさつしている。」では昨年度93.2%に対し、今年度89.1%で4.1%減。</li> <li>「自分は、ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている。」では、昨年度84.3%に対し、今年度83.1%で1.2%減。</li> <li>「自分は、時間や期限を守り、授業を大切にしている。」では昨年度87.3%に対して、今年度88.1%で0.8%増。</li> <li>保護者の平均評価は2.8から2.7となった。「1（そう思わない）」と「2（あまりそう思わない）」を合わせると39.1%ある。今後もキャリア教育のさらなる充実が必要である。また学校だけでなく、保護者に向けても、生徒と将来に向けて話し合うなど、協力を要請したり、本校の取り組みを知っていただく努力をしたりすることが必要である。</li> <li>今年度もキャリア教育を推進する上で基盤となる「あいさつ」「掃除」「時間」の指導に重点的に取り組み、教師も生徒も意識して生活できるようになってきている。教員の平均評価は高いものの、生徒や保護者の評価と大きく差が見られることから、生徒の実態を把握し、キャリア教育の内容を見直す必要がある。</li> </ul>
	生徒 自分は、（まわりの人たちから）自分の存在や思いが大切にされていると思う。	3.0	85.7	75.0	78.1	78.8	
	生徒 自分は、将来の夢や目標をもっている。	2.9	60.8	61.8	70.3	64.7	
	生徒 自分は、自分からあいさつしている。	3.4	90.2	92.1	85.1	89.1	
	生徒 自分は、ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている。	3.2	70.6	84.2	90.5	83.1	
	生徒 自分は、時間や期限を守り、授業を大切にしている。	3.3	82.4	92.1	87.8	88.1	
	保護者 お子さんは、学校の指導を通して将来の進路や今後の生き方について考えるようになってきていると思う。	2.7				60.9	
	教師 学校は、『育ちのプログラム』と関連させた重点・目標数値を学校づくりビジョンに定めて重点的に取り組み、成果をあげている。	3.2				100	
人権・道徳・特別支援教育	生徒 自分は、いじめや差別は絶対にいけないと思う。	3.8	100	98.7	95.9	98.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒質問「いじめや差別は絶対にいけないと思う」の昨年度が96.6%に対して、今年度は全体で98%となった。ここ数年高い数値を示しており、本校生徒は前向きに人権のことを考えていると言える。</li> <li>「学校へ行くのが楽しい」では昨年度が84.3%に対して、今年度は82.5%となった。中でも3年生が75%と低く、学年が上がるにつれ低くなっている。3年生は受験に向かう不安感など、自分の現実を肯定的に受け止められない現状が見受けられる。学校行事や部活動等の充実に加え、日々の授業が生徒にとって「わかる授業」となるよう、取組を継続して進めていく必要がある。</li> <li>保護者の平均評価は2つの質問に対して、ともに3点台となっており、ここ数年、一定の評価を得られている。</li> <li>教員の平均評価はここ数年、3.2、3.3と高い数値を示しており、教師自身が自分たちの指導に対して一定の手ごたえや充実感、生徒の寛容などを感じていることであると思われる。</li> </ul>
	生徒 自分は、学校へ行くのが楽しい。	3.2	94.1	81.6	75.3	82.5	
	保護者 お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な人権感覚や道徳性を身につけてきていると思う。	3.2				91.4	
	保護者 学校では、どの生徒も自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加していると思う。	3.1				85.7	
	教師 学校は、生徒の人権感覚や道徳的心情、実践力を育てるために適切な指導を行い、成果をあげている。	3.3				95.0	

内容	設問 ※ 設問に対する回答は、4（そう思う）、3（だいたい そう思う）、2（あまりそう思わない）、1（そう思わ ない）の4段階で評価	平均 評価	4（そう思う）と3（だいたい そう思う）の評価の割合				考 察
			1年生	2年生	3年生	全体	
規律ある生活習慣 生徒指導	生徒 自分は、学校のルールやマナーを守って生活することを心がけている。	3.4	92.2	97.4	93.2	94.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者の高評価に対して、今年度は教員の平均評価、評価割合がかなり低い。生徒指導面ではほとんどの生徒が落ち着いて学校生活、家庭生活を送っているものの、十分な注意をしていないと集中できない場面がそれぞれの学年で見られることへの教師の危機感の表れであろうと考えられる。そういった状況下では、学習面などへの影響も大きくなるので、今後も改善のための努力が継続的に必要である。また、教員同士の共通理解のもと、足並みをそろえて生徒指導にあたる必要性もある。</li> <li>・今年度もキャリア教育として「あいさつ」「掃除」「時間」に重点的に取り組み、生徒指導の面でも一定の成果を得ており、指導を継続していく必要がある。</li> </ul>
	保護者 お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な生活習慣やルール・マナーを身につけてきていると思う。	3.2				90.4	
	教師 学校は、生徒の基本的な生活習慣の確立や規範意識・自立性の育成に向けて適切な指導を行い、成果をあげている。	2.7				55.0	
学校行事・生徒会 活動・学級活動	生徒 自分は、班・学級活動や生徒会・委員会活動、体育祭や文化祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。	3.4	96.1	89.5	90.5	91.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年、生徒、保護者の各平均評価は安定して高い。毎日の学級活動や生徒会・委員会活動も安定して活動ができており、概ねよく理解されていると言える。ただ、ここ数年、評価割合が若干減少していることや、教員の評価割合も5.3%減となったことからすると、働き方改革等により、以前にもまして活動内容や創造的活動が縮小傾向にあることがそうさせているのかもしれない。体育祭や文化祭、修学旅行や職場体験学習、自然教室等は体験的な学習として極めて重要であり、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。今後活動内容の精選と充実を進めつつ、自主性を育てる指導を継続しよりよいものを目指していく必要がある。</li> </ul>
	保護者 お子さんは、学級・生徒会活動や学校行事を通して友だちとの望ましい関係を深めたり、自主性、協力性、公共心などを身につけてきたりしていると思う。	3.2				91.4	
	教師 学校は、学級・生徒会活動、学校行事等を通して仲間づくりや生徒の自主性、協力性、公共心などを育成するために適切な指導を行い、成果をあげている。	3.4				94.7	
部活動	生徒 自分は、学校の部活動に積極的に参加している。	3.4	92.2	82.7	92.1	88.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者ともに平均評価はそれぞれ3.4、3.2と高いものの、昨年度に比べ生徒の評価割合は8.6%減となった。多くの生徒は、意欲的に取り組んでいるものの、部活動ガイドラインが出たことで活動時間が減り、個々にみると意欲が継続しない生徒もいる。今後も部活動ガイドラインを改訂し、部活動のあり方を見直していく中で、学校として仕事の精選や教員の仕事分担の見直し等も行いつつ、活動内容の充実にも努めていく必要がある。</li> </ul>
	保護者 お子さんは、学校の部活動を通して自主性や協力性、責任感や連帯感、ねばり強さなどを身につけてきていると思う。	3.2				87.1	
	教師 学校は、部活動を通して自主性や協力性、責任感や連帯感、ねばり強さなどを育成するために適切な指導を行い、成果をあげている。	2.9				70.0	
教育相談	生徒 学校には、自分の気持ちや思いを聞いてくれたり、悩みや心配ごとなどを相談できたりする先生やカウンセラーさんがいるので安心できる。	3.1	88.0	88.2	73.6	82.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、生徒及び保護者の評価割合がともに3.7%増となった。数値が上がったことは喜ばしいことだが、今年度も教員の平均評価3.5と生徒及び保護者との平均評価の差がまだみられる。また生徒は「あまりそう思わない」「そう思わない」とする割合が17%近くあり、今後も相談機会の拡充や効果的な相談に向けた改善が必要である。日頃から各学年とも担任等があいさつを含めて共感的姿勢による声かけや生徒との会話の機会を増やす努力をしてはいるものの、安心して相談できないと感じる生徒は存在している。今後も相談機会の拡充や効果的な相談の在り方等の検討をし、少しでも生徒が相談しやすい体制をつくっていく必要がある。</li> </ul>
	保護者 学校（先生）は、お子さんの思いや悩みなどを聞き取ったり、相談したりするしくみや雰囲気などを適切に整えていると思う。	3.2				93.5	
	教師 学校は、生徒理解のために適切な教育相談を行い、成果をあげている。	3.5				100.0	
危機管理・安全な生活	生徒 自分は、病気やけが、災害や事故、犯罪の被害などにあわないようにするため、日頃から健康や安全に気をつけて学校生活を送っている。	3.3	96.1	96.1	82.4	91.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者、教師とも平均評価は今年度も高い数値となった。これは年3回実施する避難訓練や、生徒や保護者が日常的な病気やけが、事故発生時の対応等が適切に取り組まれていると感じられているからと考えられる。今後も日常的な危機管理をはじめ、防災教育を推進するとともに、日頃の指導・訓練の他、幼稚園との合同避難訓練や各地区の自主防災訓練への中学生の参加等、地域の一員としての自覚を促す指導を継続していく必要がある。</li> </ul>
	保護者 学校（先生）は、健康で安全・安心な学校づくりに努めていると思う。	3.3				98.4	
	教師 学校は、生徒の健康で安全な生活のために、必要な組織や体制を整えるとともに適切な指導や訓練等を行い、成果をあげている。	3.4				95.0	
地域・保護者等との連携	生徒 自分は、保々地区が好きだ。	3.2	92.0	78.9	82.4	83.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の評価割合が若干下がったものの、ここ数年、生徒、保護者、教員の各平均評価の値は共に安定して高い。学校ホームページをタイムリーに更新したり、生徒の思いや考えを掲載した学年通信を継続的に発行していたりしていることが高評価につながっていると考えられる。今後も地域との関わりを大切にしながら、生徒の「自分は、保々地区が好きだ」という意識を持たせていく必要がある。</li> </ul>
	保護者 通信・たより・ホームページ、電話連絡、家庭訪問、オーブンデー、保護者懇談会などによって学校やお子さんの様子がわかりやすい。	3.2				93.5	
	教師 学校は、保護者や地域に学校や子どもの様子を知らせるために適切な取り組みを行い、成果をあげている。	3.5				95.0	